

# フィリピンのセブ島における語学研修の一考察 －高校生が事前学習に ICT を使って－

室井 美稚子・室井 明<sup>1</sup>

## A Report on an Intensive Language Course in Cebu, the Philippines - High School Students Using ICT to Prepare -

*Michiko MUROI and Akira MUROI<sup>1</sup>*

### Abstract

Efficient programs for short-term English Language training programs are needed in our society for not only students but adults to gain speaking competence. Recently, language institutes in Cebu Island in the Philippines provide much more practical training programs, compared to the conventional institutes in native speakers' countries. There are several reasons: 1) high quality of teachers' English ability, 2) the inexpensive cost, 3) one-on-one style of teaching and customizing programs, 4) teachers' experience of being active learners of the target language, 5) relatively safe area, 6) attractive tourism spots and facilities.

The following data was taken to investigate how much the participants' English skills improved. In March 2016, 21 senior high school students in Nagano Prefecture stayed in a language institute in Cebu Island for two weeks. Before going there, they had also taken an online English conversation preparation course using ICT. The data shows how much their English skills improved by what type of learning. Their TOEIC scores indicate that listening and total integrated skills progressed but that there was no significant change in their reading skill. Besides English, weekend activities gave them some opportunities to think about the children's situation of the Philippines and the differences from their own circumstances.

キーワード: セブ島語学研修, 高校生, 英語運用能力, ICT, TOEIC

Keywords: Language Learning Program in Cebu, High School students, English Proficiency, ICT, TOEIC

### 1. はじめに

近年、フィリピンにおいて英語の語学研修を行うことが、韓国だけでなく日本人の間でも普及してきた。英語でコミュニケーションを取る必要性を日本社会が一層感じ始めているところに、経済的理由によって inner circle の国での語学研修に割けるコストと時間に制約が出ていることが直接の原因であろう。加えて、従来のビジネスパーソンだけでなくインバウンド観光客に接する一般の人も地域を問わず増えて、現実に World Englishes を受け入れる方向への意識変革がおこりつつあると考えられる。いわゆる英語のネイティブ信仰からの脱却が進んでいるのであろう。

英語の運用能力に自信をつけたい社会人や大学生、そして高校生などが破竹の勢いでフィリピンに押し寄せている現実はどうに捉えればよいのか。英語教育の観点からだけでなく、グローバルな経済格差などを勘案すると考えるべき点が多い。セブ島では少なく見積もっても現在 2,000 人の講師が従事しているそうである。フィリピンでは比較的高収入になるので、大卒の人々にとって、国を離れることなく働ける点で良い職業と言えるだろう。ただし、英語力のテストなども頻繁に行われ、受け持ち生徒のアンケート評価結果も厳しく問われる。コストパフォーマンスの良さをどう捉えればよいのか。

本稿では、セブ島での短期の語学研修を行った高校生グループの参加の在り方と事前の ICT の利用も含めた効果の検証を通してその実態について報告する。

---

<sup>1</sup> 長野県須坂高等学校

## 2. セブ島の語学研修

フィリピンの中でも、セブ島は安全と観光の面でマニラなど他の都市と比べると人気が高く、語学学校は島内に現在 100 校ほどあり、草分けの韓国資本だけでなく日本資本の語学学校の割合が増加しつつある。2014 年 3 月にはセブ島全体で、日本系の語学学校は全体の 1 割程度であるとの説明を現地で受けたが、2016 年 3 月には 2 割を越えていると、セブ島での草分け的な存在である同じ経営者からの言であった。経営には、従来の語学学校だけでなく大手企業が参入しつつある。受講年齢は、韓国は小学生からと幅広いが、日本からは大学生が主で、社会人も休みを縫って TOEIC スコアの向上などを狙って訪れている。また、高校生の参加も増えつつある。受講者の国に関しては、従来の韓国、日本に加えて、最近では、ベトナムやロシアからも来ているとのことであった。

語学研修を受けるのは、職場で TOEIC のスコアが重い比重を占める会社員、キャリアアップのための転職希望者、運用能力を上げたい英語教員、英語力を就職につなげたい大学生、inner circle の国へのワーキングホリデーへの準備、時間を有効活用して英語を身につけたい主婦など多岐にわたる。中には小学生の子どもと親子で参加しているケースも見られた。参加地域は、本稿で扱う I 校へは東京を中心に、今夏からは関西、九州、中四国からもと広がりを見せ、個人による申し込みや団体募集型で 10 人～50 人の団体グループなどが既存もしくはカスタマイズマイズのプログラムを採用して参加している。学部研修としての全員参加のプログラムを実施している公立大学もあるなど、団体では大学だけでなく、最近では高校生も私立高校に加えて本ケースのように公立高校も増加しているようで、2016 年夏までに累計 50 校を超える勢いだそうだ。驚いたことに、韓国系では小学生専用の施設も見受けたが、日本人対象の場合はそこまでは至っていないようである。

なぜ、フィリピンで英語を学ぶかに対する理由としては、①outer circle の英語圏で英語のレベルが高い②人件費が安いのでマンツーマンやカスタマイズの授業が可能③日本との時差がたった 1 時間と体の負担が少なく、希望すればスカイプなどを使った事前学習が可能である④英語の指導者が学習者の経験を有する、などがあげられよう。また特に、なぜセブ島かについては、⑤フィリピン国内有数の観光地で、比較的安全で治安も良い⑥マリンスポーツなどレジャー施設もあり、語学研修以外の魅力もあること、なども理由であろうと考えられる。

一般的に研修は、月曜日から金曜日の一週間単位で、早朝から、希望すれば夜遅くまでや土曜日も行われる。小部屋でのマンツーマン/one-on-one の授業が抜群に多く、1 日に何時間も英語を使わざるを得ない環境が特筆に値する。これは、アメリカやカナダやオーストラリアなどのフィリピンと比べて人件費が格段に高い語学学校におけるグループレッスンを中心とした語学研修とは大きく異なる。受講生のニーズに従って、『スパルタ方式』や『セミスパルタ方式』、TOEIC 高得点取得、企業などで必要とされるプレゼンスキル向上などの多様なコースが用意されている。また、学校単位などで参加すればボランティア活動などのカスタマイズもできて、発展途上国に関するソーシャルアウェアネスが参加者に生じることも多く、この点も欧米での研修との違いであり、団体参加の主催者側の考え方や目的が問われる。とにかく、人件費やアコモデーションのコストパフォーマンスの良さだけに目が行きがちになるが、若い参加者の中には現地での些細と思われる交流からでも発展途上国について考え始めたり、偏見を乗り越える者も見られる。

とくに、英語を教える講師陣が大学を卒業したてくらいの若い場合が多く、その明るく温かい人柄に触れて友人のように感じたり、宗教的な敬虔さや家族想いの優しさに感銘をうける高校生や大学生も多い。また、流暢に英語を話すその講師たちの母語が例えば地域語のセブアノ語で、学習言語は国語であるフィリピン語と公用語の英語であったりと、自らも努力して英語を学んできた姿勢にも感銘を受ける。それなのに講師たちは語学学校によっては、例えば TOEIC の試験を頻繁に受け高得点を維持できなかったり、受

講者からの評判が悪ければ失職の可能性もあるということに驚くだけでなく、仕事の厳しさ以上の何かを考えさせられる者も少なくない。

### 3. 参加報告と調査

#### 3.1 参加者

長野県内の公立高校生 21 人。長野県の「高校生の留学促進事業（短期派遣）プログラム」により 1 人 10 万円の補助を得ての参加のため、一定の成績基準をクリアした生徒 20 人と自主参加者が 1 人で、期間は 2016 年 3 月 6 日～20 日の 2 週間。男女別では男子 3 名、女子 18 名。学年は 1 年生 4 名、2 年生 17 名であった。参加の動機はおおむね英語力・コミュニケーション能力の向上ということだが、異文化体験や外国の人に自分から話しかける積極性を身につけたいというものもあった。

またアンケートで、英語留学経験の有無を尋ねたところ 21 人全員が「いいえ」であった。

#### 3.2 調査目的

日本におけるオンライン英会話の事前指導に加えて、セブ島でのセミスパルタと呼ばれる 1 日 8 時間のマンツーマンを中心とした授業、そして自習も含めて朝から夜まで英語漬けの研修の効果を見る。

また、研修によって参加者の意識がどのように変化するかを知ることが目的である。

#### 3.2 調査方法

2 週間のセミスパルタの語学研修に参加する生徒が、その短期間でどれくらい英語力がアップしたかが数値に表れるかを見るため、研修前と後に TOEIC テストを受験させ、その点数の推移を比較した。また、参加前と後で具体的に民間の英語テストのスコアにおいても、著しい変化が見られるかを調査とした。

参加生徒には、データは匿名にした上で研究に使われることを明瞭に伝えて各自の同意を得た。

#### 3.3 語学研修の概要

##### 3.3.1 事前指導

事前指導としてスカイプを利用して、Pad やスマートフォンによるオンライン英会話学習を全員に課した。期間は渡航前の 3 ヶ月間(2015 年 12 月 1 日～2016 年 2 月 29 日)とし、1 回 25 分×30 回×3 ヶ月=最高 90 回で、原則として 1 日 1 回、やむを得ない場合は 1 日 2 回とした。定期試験やクラブ活動などがあったため、最終的には直前の 2 週間ほどは 1 日 3 回を許可した。受講回数は最高 87 回、平均 71.4 回であった。

##### 3.3.2 現地研修

フィリピン、セブ島での研修内容は以下の通りである。

期 間：2016 年 3 月 6 日(日)～20 日(日) (15 日間)

授業期間：月曜～金曜日の 2 週間

語学学校：I 校 C キャンパス

参加生徒：高校 2 年生 17 名(内男子 3 名)、1 年生 4 名

参加条件：英語の成績が 5 段階で平均 4.0 以上

費 用：渡航費を含めて約 28 万円 (スカイプによるオンライン英会話を含む)

(高校生の留学促進事業（短期派遣）プログラムで 1 人 10 万円の補助金を含む)

研修日程

時間	授業タイプ
07:00～07:30	Voca Test (15 問中 12 問以上合格)
07:30～08:00	朝 食
08:10～09:00	第1限 : マンツーマン授業①
09:10～10:00	第2限 : マンツーマン授業②
10:10～11:00	第3限 : マンツーマン授業③
11:10～12:00	第4限 : マンツーマン授業④
12:00～13:00	昼 食
13:00～13:50	第5限 : マンツーマン授業⑤
14:00～14:50	第6限 : 小グループ授業
15:00～15:50	第7限 : 小グループ授業
16:00～16:50	第8限 : 小グループ授業
18:00～18:50	夕 食
19:00～21:00	義務自習

生徒たちは、月曜日から金曜日までは毎日同じ時間割で、毎週月曜日に張りだされる一覧表を見て教室を移動しながら1日8時間の授業を受けた。学校には、たたみ1～2畳くらいの個室が50あまりと、10人ほどでグルーブレッスンのできる部屋が複数あり、基本的にはその小部屋で待機している先生の元に行きマンツーマンで授業を受けた。

また、今回は学校単位での参加だったので、夕食後に部屋を用意してもらって、全員で毎日2時間の義務自習も行った。1日約10時間の学習は、ほとんどの生徒がこれまでに経験したことのない長さだったが、事後の感想には、『実際に体験してみると、1つ1つの授業があつという間に過ぎていき、10時間の勉強は少しも苦になりませんでした。』というものがほとんどであった。フィリピン人の先生たちの気さくで明るい性格と、きめ細やかで上手く会話を引き出してくれる指導

が生徒たちの緊張をほぐし、リラックスした中でも集中して学習に取り組めたのだと思える。

### 3.3.3 施設訪問

週末を利用して DAREDEMO HERO という貧困層の子どもたちの支援を行っている施設訪問とスラムの一部の見学ができた。語学研修が主たる目的ではあったが、フィリピンにおける貧困の現状を垣間見ること、そしてその中でも懸命に生きる子どもたちやそれを支援する人々との交流をする機会を生徒たちに提供しようと考えた。

生徒たちは、子どもたちの置かれた環境を知って驚いたり、自らがいかに恵まれているかに気づかされるとともに、そんな子どもたちの明るい笑い声と夢を語り懸命に勉強する姿に感銘を受けていた。フィリピンや発展途上国に関する関心が高まったとの感想もあった。(具体例4.4)

## 4. 結果と考察

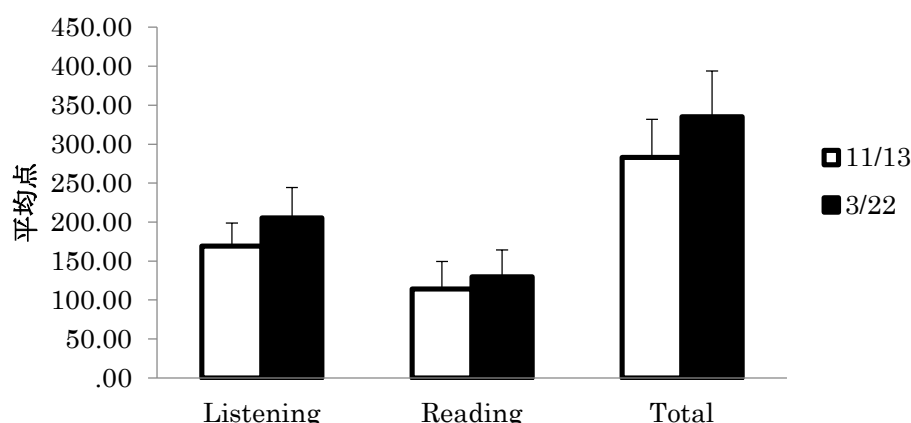
### 4.1 試験結果

TOEIC の試験は、第1回目をスカイプによる事前指導の前に、第2回目を帰国して2日目に行った。以下が、正規参加者20人の結果である。

TOEIC スコアの推移

第1回：2015年11月13日 第2回：2016年3月22日

	Listening			Reading			Total		
	第1回	第2回	増減	第1回	第2回	増減	第1回	第2回	増減
最高点	235	265	30	210	215	5	445	480	35
最低点	125	170	45	65	85	20	215	250	35
平均点	169.0	205.2	36.2	114.0	129.8	15.8	283.1	335.0	51.9



TOEIC 平均点の推移

TOEIC の結果に関しては、Listening test と Total においては得点が有意に上昇していた ( $t(20)=3.737, p<.01$ ;  $t(20)=3.501, p<.01$ ) が、Reading では有意差は見られなかった ( $t(20)=1.472, n.s.$ )。実際、スカイプでの事前指導も現地での指導も Listening と Speaking が中心であったため、Reading は伸びたものの有意な差が見られなかった。

また、受講した I 校の独自試験については、下記のような結果が得られた。また、スカイプによるオンライン英会話の受講回数も下記の結果である。オンラインの受講回数と 2 週間の研修結果の相関は、期間が空きすぎているために見なかった。

I 校独自テスト Pre-test 2016 年 3 月 7 日

Post-test 2016 年 3 月 18 日

	Pre	Post	増減
最高点	72	117	45
最低点	43	70	27
平均点	55.6	93.4	37.8

Online 受講回数

2015 年 12 月 1 日～2016 年 2 月 29 日

	受講回数
最高	87 回
最低	19 回
平均	71.4 回

現地の語学学校で受験した Pre-test から Post-test への平均点の増加は 168%と高かったが、連日の自習を入れたと 10 時間の学習の成果が出たものと考えられる。

オンラインでの指導の受講可能回数は 90 回であるので、平均 71.4 回という結果は、ほぼ満足できるものだったと評価できる。実際、多くの生徒たちがオンライン英会話を事前に受講したことで、渡航前の心構えに役立ったと述べた。生徒の感想として一番多く聞かれたのは、『英語で会話する事への抵抗感が減り、自信がついた。』『レッスンのために予習をする習慣がついた。』というものであった。参加決定から渡航までに時間があるため、その間のモチベーションの維持と、語学研修の目的の意識付けには非常に効果があったと言える。

## 4. 2 参加生徒の感想

帰国前にこの研修全体の感想を書かせたが、どの生徒もびっしりと、心に残るような感想を書いてきた

ので一部紹介する。

- ・3日目くらいから耳が慣れて、体力もついてきて、集中して勉強できるようになりました。
- ・僕は生まれて初めて恵まれていない子どもたちを目の当たりにしました。テレビでは何度か目にしたことはありましたが、生で見ると想像していた以上で、とても考えさせられました。
- ・最初の土曜日、アイランド・ホッピングに行き、綺麗な海を見て、立派なホテルを見た後で、日曜日に DAREDEMO HERO の家に行き、フィリピンという国の現実を見ました。目の前でフィリピン最先端の IT パークのビルが建ち並ぶその向かいに貧困で生活を苦しめられている人々が住んでいるのです。
- ・ストリートチルドレンやスラム街をかわいそうと思ってしまうのは、私がめぐまれているからであって、勉強不足が原因だと思いました。かわいそうじゃなくて、対等に向き合えるように学びたい。
- ・家がなくて高圧電線の下で暮らしている女の子が学校で成績トップになっていることを聞いて、自分はフィリピンの子どもたちよりはるかに豊かで学校で勉強ができるという恵まれた環境にいるのに、その子どもたちより努力をしない自分が恥ずかしく思えてきました。
- ・これは日本の先生方に伝えたいことですが、教科書の内容が大切なのも十分わかりますが、日常生活で使えるフレーズだったり、スピーキングで必要な力もつくようなこともこれからの授業に取り入れて欲しいです。今回フィリピンに来てみて、事前にオンラインをやっていたから良かったけれど、もしも学校の授業だけだと、こんなにプログラムが充実することは無かったと思います。なので、先生方、どうかよろしくお願いします！

## 5. おわりに

フィリピンのセブ島における語学研修の成果は、この参加高校生の上記の数字や感想に如実に出ていますが、成果は語学だけに留まらない。主催してカスタマイズする際には、発展途上国へのソーシャルアウェアネスの要素を勘案したいものである。

学習面では、事前のオンラインでの準備学習があったとは言え、たった2週間の現地での研修の成果は大きい。その理由の一つは参加者が多く述べているが、1日に10時間も勉強したが長く感じなかったほどの学習動機の高さがあげられる。とにかくマンツーマンが役かっているのは自明のことであるが、それでも授業の持って行き方、会話を続けさせたり、自分の意見を考えさせたりする講師のスキルの高さが感想の随所に感じられた。outer circle のフィリピンといえども英語の学習者として、自らも苦労したことを生かしてのノウハウが確立しているのであろう。また、フレンドリーであってもきちんとした指導にも学ぶべき点は多い。今後「英語を英語で教える」ときの参考にできる点がないかを研究する必要がある。

セブ島の語学学校の今後の悩みとしては、人気が出ているだけに良い講師を確保して授業の質を落とさないこと、施設設備を良くし過ぎてコストの上昇を招き、それによって他地域との競争力が落ちることだそうである。セブ島が大好きで住み着いて学校を営む場合もあれば、ブームだからと経営に乗り出す企業もある。

失業率が高く出稼ぎも多いフィリピンにあっては、就職は厳しい状況である。特に女性で大学を卒業して語学学校で職を得られることは良いことであると聞く。ジェンダーの観点からも好ましい。しかし、労働条件はどうであろうか、我々にとってコストパフォーマンスが良いことは、何を意味するのか。不公平を助長しているのか、埋めているのか、一概には言えない。ただ、そんな世界の格差の問題に、セブ島で英語を教えてもらった若者が将来、答えを出してくれそうな気がする。セブ島の語学研修は、語学的な成果以上のものをもたらしてくれるかも知れないのだ。

## 参考文献

- 大野拓司・寺田勇文 (2009) 『エリア・スタディーズ 現代フィリピンを知るための 61 章【第 2 版】』 東京：明石書店
- 外務省 (2015) 『フィリピン共和国基礎データ』 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/philippines/>
- 川添恵子 (2005) 『味時亜英語教育最前線』 東京：三修社
- 金美兒 (2004) 『フィリピンの教授用語政策 ―多言語国家における効果的な教授用語に関する一考察―』 国際開発研究フォーラム 25
- 樋口謙一郎、仲潔 (2015) 『『アジア英語留学』の現状と展望』『中部地区英語教育学会紀要』 第 45 号, 141-146
- 福屋利信 (2015) 『グローバル・イングリッシュならフィリピンで セブ・シティから世界をつかめ!』 東京：近代文藝社
- 文部科学省 (2013) 『「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」について』  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/25/12/1342458.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/12/1342458.htm)

2017 年 3 月 7 日